

高尾山報

令和5年8月号

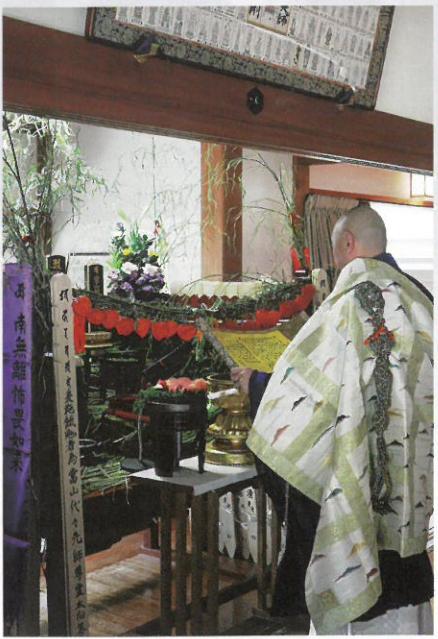


自分を見つめて一字一字に思い込め

於・高尾山写経大会

盆迎え火 先師墓地参り

七月十三日



高尾山お施餓鬼大法要

七月十一日 於・山麓不動院

まの超人的なお姿とは一
風変わった話も収められ
ています。
今は昔。嵯峨天皇(七
九六)八四二の御代に
弘法大師と申し上げる
方がいらつしやいました。
天皇の護持僧でもありま
した。一方、山階寺の修
円(七七一)八三五)と
いう方もまた護持僧とし
て仕えていました。お二
人ともたいへんすぐれた
方で、天皇も平等に扱っ
ていました。

ある時、修円が天皇の御前に入りました。そこで大

きな生栗がありました。すると修円は「法の力で

茹でて見せましょう」と

提案します。さつく修

円に修法をさせてみたと

ころ、とてもよく茹でら
れましたので天皇はこれを尊

ばれて、何度もそういう

ことを行わせました。

さて、天皇がこれを弘

法大師にお話しなると、

私は脇に隠れて加持を

してみましょう」と語り

ます。そこで修円を召し

ました。

大師は「それならその時

に私は脇に隠れて加持を

してみましょう」と語り

ました。

さて、天皇がこれを弘

法大師にお話しなると、

私は脇に隠れて加持を

してみましょう」と語り

ました。

大師は「それならその時

に私は脇に隠れて加持を

してみましょう」と語り

ました。

さて、天皇がこれを弘

法大師にお話しなると、

私は脇に隠れて加持を

してみましょう」と語り

第四十一回 高尾山写経大会

七月二十三日

一文字一文字を大切に書写する

夏の盛りを迎えた高尾山では、恒例の第四十一回高尾山写経大会が開催され、百名を超える方々の参加を頂きました。会場の有喜閣大広間に集まつた参加者は開会式に際し、佐藤貫首をはじめとした山内の僧侶と共に般若心経を読誦し、その後一文字一文字に仏様を感じて自分を見つめながら、丁寧に写経されました。また、昨年に引き続き、自宅で写経して高尾山に納める在宅写経も行い、大勢の方々の参加を頂きました。御本尊飯縄大権現様御宝前にお納め致しました。

祈念すると共に、本日書写頂いた写経と、郵送にてお送り頂きました写経を、御本尊飯縄大権現様御宝前にお納め致しました。

令和5年8月1日 第715号

高尾山報



御本尊様御宝前に納められた写経



開会式にて般若心経を読誦する

(5) 令和5年8月1日 第715号

高尾山報

ご奉納頂いた掛け軸
「高尾山薬王院曼荼羅図」奉納式に参加された
溝口会長（左）と中島郁夫さん

故・橋本豊治画伯の掛け軸 高尾山へ奉納される

六月三十日（金）

本年六月に九十歳で逝去なされた、日本画家の橋本豊治画伯が描いた掛け軸「高尾山薬王院曼陀羅図」をご奉納頂きました。この掛け軸には、飯縄大権現や薬師如来、十二神将など、高尾山にお祀りされている仏様が描かれております。曼陀羅の画を掛け軸として奉納するにあたり、橋本画伯の友人である中島郁夫さんと、中島さんの所属する東京八王子南口一タリークラブ（溝口勝巳会長）の有志により表装されました。

八王子市出身の橋本画伯は高尾山と御縁が深く、高尾山に関連する多くの作品を残しております。今回の作品は卒寿を迎えるにあたり、「これまで自身を支えて下さった神仏の加護への感謝の念を込め、集大成として描いた」と語つておられました。

生前のご厚情に深く感謝すると共に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

高尾山の昆虫 シオヤアブ

166



まさに虫界の必殺仕事人であり、圧倒的な強さを誇るスズメバチもオニヤンマもオオカマキリも体が硬い甲虫であっても、この戦法の前にまんまとしてやられてしまいます。

七月初八月に数を増し、高尾山でも多産する種で、盛夏に無敵ぶりを發揮することでしょう。ただ、この強者はスズメバチのような人に対する攻撃性は弱く、獲物に対しても僅かに救いなのかも知れません。

(文 松島 孝 撮影 上村 雅昭)

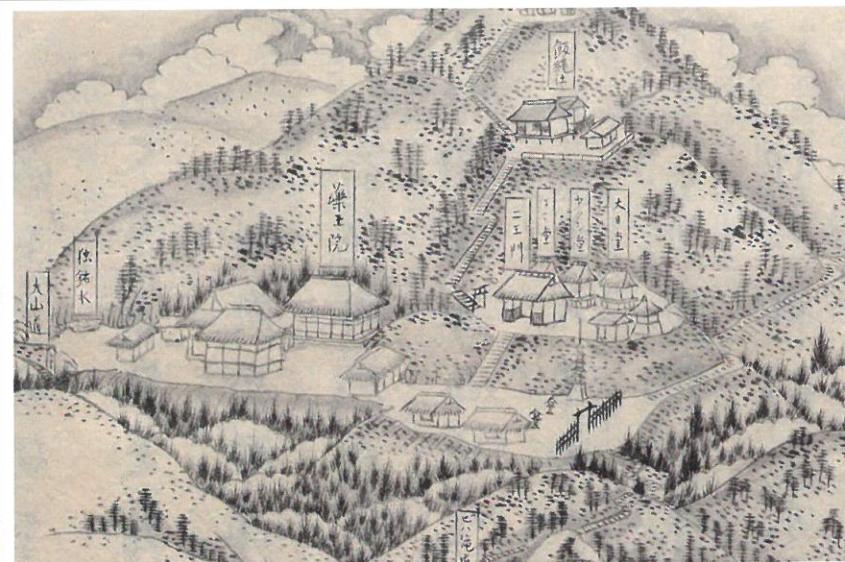
経験は何事にも替え難い財産です。本で読んだ言葉だけ、習つたことだけを語つても、聞く側にとってみると、どこかで聞いた話だと受け取られ、他人を説得することは難しいでしょう。

しかし、様々な経験を積んだ人の言葉には説得力が生まれます。そうした人は、自信をもつて話ができます。話を聞く側にとって、実践的裏付けのある、はつきりとした言葉の方が信憑性を感じることができるからです。

また、さらに説得力のある言葉を使うためにも、大げさに誇張したりせず、相手が想像しやすいようになります。話を聞く側にとって、実践的裏付けのある、はつきりとした言葉の方が信憑性を感じることができるからです。

け 経験積んだ
誠実な人
迷いなし

いろは 天狗の落し文 ③



年代的には少し後となる『新編武藏風土記稿』の挿絵(部分)。寛政2年には「薬王院」の文字の下にある本堂はまだない。

国立公文書館デジタルアーカイブ

「寺建所」として総坪数一九五坪あることから、薬王院は飯縄社や薬師堂に付属する一寺として一つの区画が認識されていたようだ。入口は「表長屋門」とあるので、現在の黒門とは形式が異なる。奥行き約四・五メートル、幅約二メートル、

が張り出しており、後の地誌の挿絵に照らすと書院のことになる。そのさらに手前側に所化寮と蓮花院がある。所化寮は弟子僧の住居、蓮花院は「隱寮」とある。

屋敷の谷側に沿つて「通行道」とある。甲州道中小仏関所の迂回を防ぐため高尾山中の通り抜けが禁じられていたが、薬王院境内を通つて小仏峠方面へ抜けるには、この狭隘な通路を通るしかなく、黒門・裏門とも左右には矢来が設けられ、容易に通り抜けられないようになつてゐる。本坊の山側には、奥の方（西側）へ張り出す「勝手

註2 現在の大本坊表
門の黒門とは異なる。
『参考文献』青木美智男
『大系日本の歴史』(11)
近代の予兆』(小学館
ライブラリー、一九九三)
おことわり 本連載では
史料の引用について、適宜
読みやすく原文に手を加
えていきます。

三つの仏堂
広庭の奥、仁王門に
上がる石段の下部右手に
手洗場がある。仁王門の
先には薬師堂を中心二
つの堂が描かれている。
薬師堂は五間（約九メー
トル）四方で周囲に四尺
幅の縁側を巡らし、左
右の堂より大きい。唐破
唐破は

三つの仏堂

風付きの立派な向拝がついていた。薬師堂は明治に入り、被災を契機に解体され、高尾山麓にある大光寺旧本堂となつた。

薬師堂に向かつて左手、「護摩堂」は現在の奥之院不動堂で、「不動尊」の記載がある。同じ規模の反対側の堂には、「大日

如來、公方様御代々御位牌所」と記される。「公方様」と言うからには將軍の位牌を祭祀していたということか、詳細は不明ながら、これが後の大日堂、現在の大師堂である。ともに三間（約五・五メートル）四方、向拝は葺き下ろしで現在と同

六畳間がゆうに四つは取れる建物だつた。表門をくぐると広場があり、右手山側の崖下に上土蔵左手谷側に接待所。正面の先に「本坊」玄関がある様子は四月号に掲載した古写真の通りである。玄関から左の方、谷側には「屋敷」という名

（庫裏）」があり、その先に下土蔵がある。本坊は南北に横長で、玄関の向こうにすぐ出口（内玄関）があり、また広場がある。山側が前述の庫裏であり、谷側に馬屋と物置、内玄関の真つすぐ先には裏門がある。梁二間とあり四隅に

十八世秀神2 山内諸堂宇の全貌

明治大學博物館

外山
游

44

田沼意次失脚の翌年、天明七年（一七八七）六月、領国陸奥白河における飢饉対応の成功をうけ、松平定信が幕政立て直しの期待を一身に背負つて老中首座に就いた。在任の寛政五年（一七九三）にかけての諸施策は寛政の改革と呼ばれる。質素儉約・風俗取締りなど綱紀肅正を基調に、窮迫する中下級武士の救済、凶荒廃した農村の復興、凶作に備えた貯穀など手堅い政策として知られる。

内諸堂宇の全貌

具体的な様子がわかるものではなかつた。しかし、この図面の存在により境内堂宇の全貌が明らかとなる。図面は同年九月に触頭真福寺註1に提出された控えで、堂舎の規模などを記した書き上げも同時に作成されている。

書き上げは飯縄権現社から始まり、山内における祭祀の中心だったことがわかる。すでに本殿・幣殿・拝殿が連結された権現造りとなつており、一番手前の拝殿は梁三間・桁行六間半とある。一間は畠の長辺の長さであるから、幅約一二メートル・奥行き約五・五メートルの畠三九枚分の広さで前面と左右の三方に縁側がある。現在の拝殿に比べて間口が倍以上の大きさ

を支える両柱の間も約四メートル半。庇には現在と同様に上へ丸く盛り上がりつた唐破風があり、庇の下には龍の彫刻があつた。鳳凰、獅子、摸、象、牡丹・唐草などの模様が記されているので、今日と同様に軒下が彫刻で装飾されていたことになる。拝殿の奥に幣殿が連結し、九尺（約二・七メートル）幅の廊下の先に九尺四方で左右に縁側のある現存の本殿がある。

は同じだが、次の平地の先の石段は現在とは位置が異なり、左手へ廻り込むようにあつた。石段の最下部に鳥居がある。

つづいて、麓から順にたどるのが分かりやすいので、表参道入口から様子を見てみよう。

黒門は両柱の間約三・六メートル。「但しこの所古来山門にてござそろう所、先年焼失つかまつりそそうろう」とあるので、屋根のついた門ではなく、後の地誌に見える柱上部の小口に金属のフタを被せた冠木門だつたようだ。黒門の脇には矢来があり、くぐつて左右の山側・谷側に参詣の道者休息所がある。二四畳と三六畳分の広さだが、畳が敷かれていたかは定かでない。黒門の向こうに「宝篋塔」とあるので、現在大本堂の左奥にある宝暦八年（一七五八）建立の塔は、この時点では広庭にあつたことになる。

高尾山年代記

で、両翼の張り出し部分を除いた大本堂に近い規模であつたことになる。

小祠しようが飯繩社を取り巻くように並んでいた。

描かれ、参道は大幅に省略し「本道この間、道法鳥居場まで三十六町（約三・九キロメートル）」とある。その記載の脇に「參

松虫くんと鈴虫さんとお月さま

恩師・菊地正先生に学ぶ(5)
創作書おろし
とんとん地蔵尊会
とんとん健康散歩の会
会長 石井忠明

とんとんむかし、満月の月明かりの夜のことでした。松虫君にと鈴虫さんの二匹が仲良く草葉の陰で美しい声を奏でていました。その声を聴いていたお月様はマツムシ君と鈴虫さんに声を掛けました。

「彼方はどうしてそんなに美しい声が出るのでですか」
二匹は答えました。
「鳴いているのではありますません、羽根と羽根を擦り合わせている音なのです」
今度は松虫君と鈴虫さんが尋ねました。

「お月様はどうして美しく輝いているのですか」
お月様は「それはね、太陽様の光を借りて光っているので

東の空から鉛色の大きな爆弾(焼夷弾)が落とされた。八王子の旧市内は既に火の海となっていました。その様子を見ていたお月様は、二匹の虫さんに大きな声で叫びました。

「早くお逃げ!爆弾はそこまで来ていますよ!土に潜るか畠の中に逃げ込みなさい!早く!」
二匹の虫さんが住んでいた裏庭にも火の粉が飛んできました。虫さんはお月様に言われたように大根畠の葉の下に潜り込

ました。牛さんが半狂乱に突進し、見えなくなりました。もう一頭の牛さんも後を追いかけるように走り、小牛さんも、「もうもう」と甲高い声を出しながらついていきました。爆撃は数時間続きました。焼け野原となつた跡には

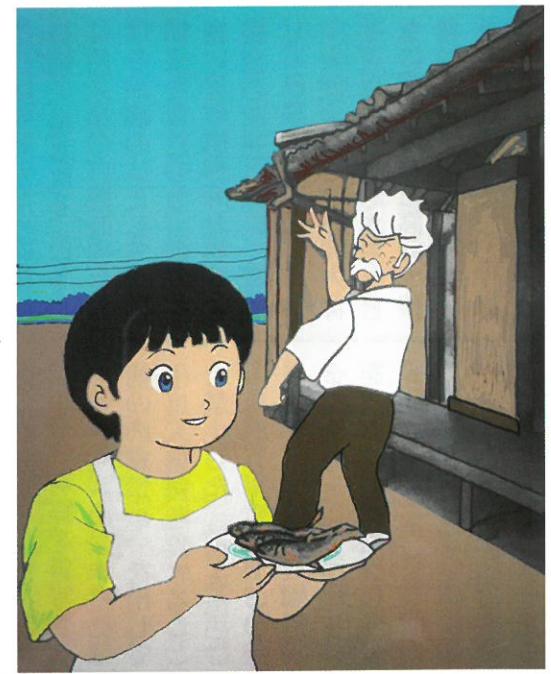
八王子市内では、朝を告げる鳥達の美しい声や夜鳴く虫達の美しい音色を大事にして下さい!」と言つた途端息が切れました。
「ワシはもう鳴くことができません、皆さん羽根は大事にして下さい!」と言つた途端息が切れました。
また、牛さんが半狂乱となつて燃え盛る火の中に突進し、見えなくなりました。もう一頭の牛さんは檻の中へ押し込まれ、悶哭を上げながら屠殺所へと消えていきました。

お月様は夜が明けるまで待つて松虫君や鈴虫さんに逢いました。それからは夜を

ら夜が明けるまで待つてお月様は夜が明けるまで待つて松虫君や鈴虫さんに逢いました。それからは夜を



秋の夜長を鳴き通すスズムシ



りんは母の実家である、越後魚沼の暮らしが好きになつた。曾祖父の幸助爺に、藏の番人ネズミのチユウ助との冬休み、春休みと珍しいことが体験できて楽しかつた。五年生の夏休みに入ると、東京からすっ飛んできた。今日もりんは宿題そつちの内で、チユウ助とアユ釣りから帰つて來た。家に近づくと

♪ああ
ほんだてがんにナスの皮の雑炊だ
爺が鼻歌まじりで二、三日前、りん達が捕つてきたアユを串に刺して、いろいろで焼く準備をしていた。

「ただいま、今日はゼロだよ」
りんの元気な声に爺の顔がほころんだ。チユウ助が、

百歳近い爺の家に、そんなもんじゃないよ。コンビニも遠いしなりんちゃやみんな食べたのか?」

爺が鼻歌まじりで二、三日前、りん達が捕つてきたアユを串に刺して、いろいろで焼く準備をしていた。

「ただいま、今日はゼロだよ」

りんの元気な声に爺の顔がほころんだ。チユウ助が、

「ただいま、今日はゼロだよ」

觀音菩薩の宗教

(68)

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

如意輪觀音（その6）

高度に医療技術が発展し、衛生環境が整備された現代の工業社会ですら、病気の蔓延は人々を怖らせ、社会機能を破壊する。新型インフルエンザの流行やSARSの集団発生、そして最大のパンデミックとなつた二〇一九年からの新型コロナは世界を大混乱に陥れた。それでも、ワクチンの開発の可能性があり、進んだ医療機関の恩恵に与れる現代は、近代以前ことに古代社会に比べ大きな格差がある。

しかしながら古代といつても、医療がなかつたわけではない。『統日本紀』の冒頭の記事を見るに、七世紀から八世紀にはかなりの頻度で疫病の発生が記されており、そ

の時期の疫病対策は「いざれも判を捺したように『医薬』だつた」（本庄総子『疫病の古代史』吉川弘文館、二〇二三年、一六一頁）ことがわかる。例えば文武天皇二年（六九八）三月丁卯条には「越後国が疫病の発生を報告してきた。医薬を給して救援した」とあり、本庄氏の同書では「医師の派遣と薬の支給をし」と注釈している。また、十世紀の『延喜式』（典薬寮）には、飲み薬の「〇〇丸」、「〇〇膏」の三類型が挙がっている（同書、一六〇頁）。二年前より疫病が大流行した天平九年（七三七）に典薬寮が作成した疫病治療法には、貴族を対象としたものとはい、湯

が司つた。これにより、

ここに見える典薬寮とは、律令制において宮内省に属した役所で、治療と調藥を取り組んでいたことがわかる。

とはいえ、疫病がもと

は「神の祟りによるものと観念されていた以上、疫病対策として、崇つていている。また、十世紀の書、二七七頁）日本古来の神にそうした性格があつたのはもちろんであるが、仏教が社会や精神に根を下ろすと、祈りの対象に仏菩薩が加わるようになる。

前号以来、天平時代の如意輪觀音を見てきていたが、觀音菩薩の信仰が高まる以前は薬師如來が治病の仏として尊崇されていた。文化史、ことに美術・彫刻史の視点で白鳳時代と呼ばれる時代、その中心にあつたのは天武



觀音菩薩の信仰が高まる以前は薬師如來が治病の仏として尊崇されていた。飛鳥四大寺のひとつ川原寺で一切経を書写させていた。即位した六七三年に天武天皇は天照大神を天皇の祖先であるとともに国家の神に高め、伊勢神宮の祭祀を国家行事として整備するなど、神道を尊ぶとともに、仏教

[ColBase](https://colbase.nich.go.jp/collection_items/narahaku/886-0?locale=ja)

天皇と、その皇后であつた鷲野讚良である。鷲野讚良は天武天皇の崩御後、持統天皇となる。以下では両天皇の白鳳時代における治病の仏として薬師如來を見たのち、前号を継いで看病禪師と如意輪觀音の関連について考察してみたい。

天武天皇は天照大神を天皇の祖先であるとともに国家の神に高め、伊勢神宮の祭祀を国家行事として整備するなど、神道を尊ぶとともに、仏教

と恢復した（『日本書紀』『薬師寺東塔櫻銘』）。薬師寺は両帝によつて築かれた藤原京に建立された薬師如來を本尊とする寺院である。藤原京は日本で初めて条坊制を採用した都で、持統天皇は、この都の景觀の美しさを寿ぎ

さて、如意輪觀音について述べる中、薬師如來信仰の説明に紙幅を費やした。前号で述べたように、聖武天皇の時代に至ると聖武天皇が詔して看病禪師を招いて聖武天皇の病氣の治療にあつたのは聖武太上天皇の時代である。

現代では禪師といふと禅宗の高僧を指すのが一般的であるが、奈良時代では山林修行により靈験を得た僧侶を指した。なかでも靈験を通じて病を治す技能を有した僧侶をいい、これを看病禪師と呼んだ。前号で見たよ

うに看病禪師は、陀羅尼などを誦することにより治療した。以下に聖武天皇の治療で名を残した三名の看病禪師について見てみよう。

慈悲は『統日本紀』によれば興福寺の玄防などから唯識や華嚴を学んだ学僧であった。そのうえ治病に異能を有しており、聖武天皇の看病祐の名が現れる。聖武天皇は天平勝宝元年（七四九）、娘の阿倍内親王に譲位して日本初の太上天皇となつた。阿倍内親王は孝謙天皇となる。孝謙天皇が詔して看病禪師を招いて聖武天皇の病氣の治療にあつたのは聖武太上天皇の時代である。

藤原京も現在では史跡公園となつて考古学的発掘とともに、治病の仏として天平時代には廢寺となつた。藤原京は平城京遷都ともに奈良に移り、藤原京に残つた寺は本薬師寺と呼ばれるようになり平安時代には廢寺となつた。藤原京も現在では史跡公園となつて考古学的発掘が、移転した薬師寺は薬師信仰の中心として天平期に隆盛を極め現在にいたつてている。

天武天皇は『金光明經』の護國思想を重んずるとともに、治病の仏として天武天皇は鷲野讚良の病氣平癒のために薬師寺建立を誓願、ために薬師寺建立を誓願、

さて、如意輪觀音について述べる中、薬師如來信仰の説明に紙幅を費やした。前号で述べたように、聖武天皇の時代に至ると聖武天皇が詔して看病禪師を招いて聖武天皇の病氣の治療にあつたのは聖武太上天皇の時代である。

現代では禪師といふと禅宗の高僧を指すのが一般的であるが、奈良時代では山林修行により靈験を得た僧侶を指した。なかでも靈験を通じて病を治す技能を有した僧侶をいい、これを看病禪師と呼んだ。前号で見たよ

うに看病禪師は、陀羅尼などを誦することにより治療した。以下に聖武天皇の治療で名を残した三名の看病禪師について見てみよう。

慈悲は『統日本紀』によれば興福寺の玄防などから唯識や華嚴を学んだ学僧であった。そのうえ治病に異能を有しており、聖武天皇の看病祐の名が現れる。聖武天皇は天平勝宝元年（七四九）、娘の阿倍内親王に譲位して日本初の太上天皇となつた。阿倍内親王は孝謙天皇となる。孝謙天皇が詔して看病禪師を招いて聖武天皇の病氣の治療にあつたのは聖武太上天皇の時代である。

藤原京も現在では史跡公園となつて考古学的発掘とともに、治病の仏として天平時代には廢寺となつた。藤原京は平城京遷都ともに奈良に移り、藤原京に残つた寺は本薬師寺と呼ばれるようになり平安時代には廢寺となつた。藤原京も現在では史跡公園となつて考古学的発掘が、移転した薬師寺は薬師信仰の中心として天平期に隆盛を極め現在にいたつていている。

天武天皇は『金光明經』の護國思想を重んずるとともに、治病の仏として天武天皇は鷲野讚良の病氣平癒のために薬師寺建立を誓願、ために薬師寺建立を誓願、

さて、如意輪觀音について述べる中、薬師如來信仰の説明に紙幅を費やした。前号で述べたように、聖武天皇の時代に至ると聖武天皇が詔して看病禪師を招いて聖武天皇の病氣の治療にあつたのは聖武太上天皇の時代である。

現代では禪師といふと禅宗の高僧を指すのが一般的であるが、奈良時代では山林修行により靈験を得た僧侶を指した。なかでも靈験を通じて病を治す技能を有した僧侶をいい、これを看病禪師と呼んだ。前号で見たよ

うに看病禪師は、陀羅尼などを誦することにより治療した。以下に聖武天皇の治療で名を残した三名の看病禪師について見てみよう。

慈悲は『統日本紀』によれば興福寺の玄防などから唯識や華嚴を学んだ学僧であった。そのうえ治病に異能を有しており、聖武天皇の看病祐の名が現れる。聖武天皇は天平勝宝元年（七四九）、娘の阿倍内親王に譲位して日本初の太上天皇となつた。阿倍内親王は孝謙天皇となる。孝謙天皇が詔して看病禪師を招いて聖武天皇の病氣の治療にあつたのは聖武太上天皇の時代である。

宗祖弘法大師御誕生
壱千二百五十年記念

高野山巡拝のご案内

令和5年9月27日(水)～9月29日(金)

行程

※行程は変更になる場合がございます。

9月27日 (水)	新横浜駅[11:00頃発]一(東海道新幹線)一新大阪駅[14:00頃着] 一(バス)一市内ホテル『和歌山』《夕食・宿泊》
9月28日 (木)	ホテル[9:00発]一(バス)一高野山内散策 一高野山大門《登拝グループ合流》一(バス)一持明院《昼食》一(バス) 一奥之院参拝一(バス)一竹林院《奈良県吉野郡》《懇親会・宿泊》
9月29日 (金)	竹林院[9:00発]一(バス)一金峯山寺参拝一(バス)一新大阪駅付近《昼食》 一新大阪駅[15:00頃発]一(東海道新幹線)一新横浜駅[17:30頃着]

申し込み先・巡拝企画・主催
大本山高尾山薬王院
〔宗祖弘法大師御誕生〕

電話 ○四二一六六一一一二五

壱千二百五十年記念高野山巡拝係
担当秀峰会事務局

旅行取扱
京王観光株式会社
八王子支店

電話 ○四二一六三三四七二二



お申込みについて
1 ハガキに必要事項【郵便番号・住所
・氏名とふりがな・性別・生年月日
・電話番号(自宅、携帯とお持ちの方は両方ご記入下さい)・緊急連絡
先と関係】を必ず明記してお送り
下さい。
2 左記のQRコードからお申込み下さい。
※保険に加入する都合上、必要事項は必ず明記して下さい。
※お申込み後に取り消しをされる場合は、九月五日より取消料金を申し受けます。

ご相談等のある方は時間内(九時～六時迄)にご連絡下さい。
※二日目の高野山奥の院参拝、竹林院が、二日目の竹林院は一部屋二名(五名となります)。懇親会は、高尾山慶賀会の皆様と合流致します。

季節の絵手紙「心があたたかくなる」

八王子市 栄谷怜子 様



高尾山季節散歩

暦の言葉 「七十二候」

九月一日～九月五日頃
「こくものすなわちみのる」

稻が実り始める時期で、夏を過ぎて稻穂が成熟し、日に日に垂れ下がつてくるようになります。低地でもトンボが飛ぶようになります。朝夕の涼しさが際立つていて、だんだんと実りの秋へと近づいていきます。

今月の風物詩
朝顔

朝顔は日本では非常に馴染みのある花で、小学生の頃に観察日記をつけた経験がある方も多いでしょう。朝顔の種には下剤や利尿剤となる成分が含まれているため、長らく「牽牛子」という生薬として用いられていました。

◎健康登山の皆様へ
高尾山報投稿の御案内

一步一歩煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

十九段 動搖しない強い心

何事によても動搖することのない精神、不動の心を意味する「不動心」という言葉があります。しかし、人間の心はどうしても揺れ動いてしまうものです。大切なことは、なるべく早く普段の平常心を取り戻すことです。

所に「投稿箱」を設置致しまして、皆様から投稿頂いたお話や作品を、「高尾山報」に掲載させて頂いております。その他、おもしろい体験・変わった出来事・ボケ・俳句等どんなお話を結構です。是非お聞かせください。御協力宜しくお願い致します。

※ 投稿頂きました作品は全て掲載できるよう努めますが、当山の判断で掲載しない場合もあります。また、多くの方に投稿頂きました場合、掲載までお時間が頂く場合がございまことを御了承下さい。



帳面………七百円
スタンプ…百円

期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみください。また、一冊に付き二十回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います。満行されますとお祝い膳として、精進料理の御接待や、健康登山者限定の記念品などと交換もできます。

「高尾山健康登山の証」
のお勧め 年間約二百八十万人の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。

成一年から健康登山を始め、今までには約五万人の方々が会員となられています。

なれば、との思いから平らでいる高尾山。

高尾山内八十八大師巡拝のご案内

弘法大師御誕生一千二百五十年記念

二つのグループに分け、途中（山上十一丁目茶屋前第十七番札所）で合流し、一緒に巡拝いたします。なお、本年は、宗祖弘法大師御誕生一千二百五十年という尊い節目の年でございます。そこで前回の五月同様に大師堂において当山貫首大導師の下、慶讃法要を厳修致します。

A、不動院から蛇滝を経由して薬王院まで歩く

B、ケーブルカーを利用する（蛇滝周辺のお大師様は巡拝出来ません。また、ケーブル代金は自己負担になります。）

いけばなの心④

華道教授 佐藤 宗明

暑い日が続きますが、八月八日は立秋。暑さ自体はちょうどその頃にピークを迎えます。非常に暑い時期の中、逆に言えればそれ以降、徐々に暑さが和らいで秋の気配を感じられます。

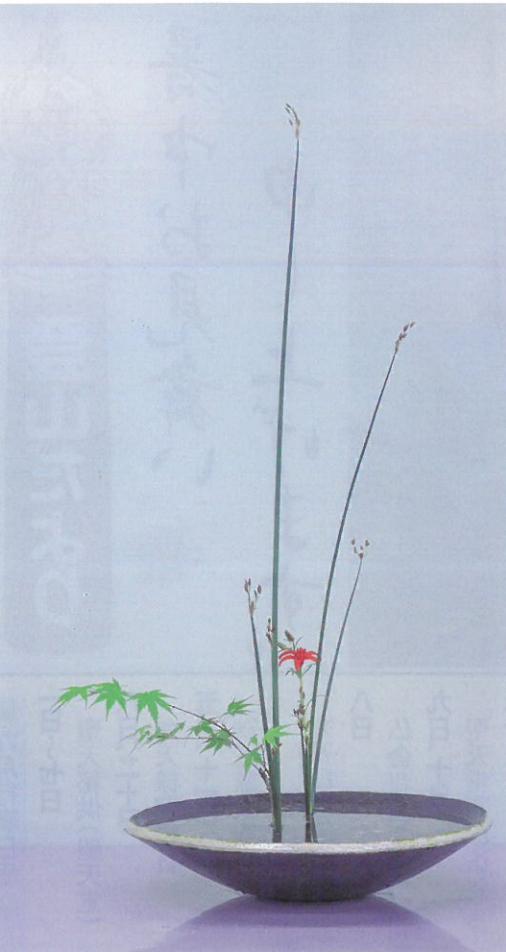
今回は水盤を使用し、水面を大きく見せる株分けの生花新風体をご紹介

介します。株分けの生花は、涼しさや秋の風を感じさせる生け方として夏から秋にかけてよく生けられます。

花材は季節の花としてきれいに咲くヒメユリをメインに設定し、夏の水辺を感じさせるふといをメイインに咲くヒメユリを取り合わせました。また、夏から秋への移ろいを彷彿させる楓をあし

らい、作品の水際を引き締めています。従来の生花では水辺に生える植物と陸上に生える植物を一箇所に生けることはできないとされていました。今回の生け方はそういった植物の植生にこだわることなく、花材を自分で見つめ直して生けることができます。夏の盛りに、秋へ気配を感じるような作品を目指しました。

まだまだ暑い時期が続きますが、涼し気な雰囲気や秋の気配を感じて頂ければ幸いです。



花材：ヒメユリ、ふとい、楓

第一百二十一回 信徒峰中修行会のお知らせ

厚木市 荒井 一雄

本年の十月に開催が予定されておりま
峰中修行会につきましては、行程など修行会の詳
細を、現在山内にて協議しております。

ご参加を検討している皆様におかれましては
ご迷惑をお掛け致しますが、ご理解頂きますよう
お願い申しあげます。
尚、申込み・行程につきましては、来月号、また
は薬王院ホームページにてお知らせ致します。

本年の十月に開催が予定されておりま
峰中修行会につきましては、行程など修行会の詳
細を、現在山内にて協議しております。

まだまだ暑い時期が

続

き

ます

が

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

だ

ま

毎日の
お護摩奉修時間午前9時30分
〃 11時00分午後0時30分
〃 2時00分
〃 3時30分ご講中・団体等
御相談下さい。

令和五年盛夏



暑中お見舞い

申し上げます。

登山だより

九月行事日程

一・七

聖天秘供(聖天堂)

八・二十

弁天様御縁日

五・十

御詠歌勉強会

(十時山麓不動院)

※五日は午前中のみ

八

仏舍利詣り(仏舍利塔)

九・十

聖天堂開扉法要

二十三

月例写経会(十三時山麓不動院)

二十四

高尾山とんとんむかし

(十二時半山麓不動院)
「語り部の会」

御志納金 每月二十一日午前九時勤修

一〇三千円以上

高尾山報助成金志納者
御芳名(順不同・敬称略)

邑 太	茅	富	高尾山報助成金志納者
樂 田	野 //	里 市	御芳名(順不同・敬称略)
郡 市	八 王 子 市	新 座 市	
福 大	大 川 増 山	小 平 市	高尾山報助成金志納者
田 川	地 篬	八 王 子 市	御芳名(順不同・敬称略)
原 関	原 黒 須	森 彰 山	
進 晴	史 史	道 雄	高尾山報助成金志納者
健 光	健 光	粧 麗	御芳名(順不同・敬称略)
登 隆	登 隆	照 森	
山 健	史 史	足 立 区	高尾山報助成金志納者
上 者	一 同	我 孫 子 市	御芳名(順不同・敬称略)
登 健	子	中 山	
山 健	一 同	守 屋	高尾山報助成金志納者
上 者	子	惠 司	御芳名(順不同・敬称略)
登 健	一 同	高 尾 山 健 康 登 山 者	
山 健	一 同	横 浜 市	高尾山報助成金志納者
上 者	子	練 馬 区	御芳名(順不同・敬称略)
登 健	一 同	藤 岡 市	
山 健	一 同	武 蔵 野 市	高尾山報助成金志納者
上 者	子	川 口 市	御芳名(順不同・敬称略)
登 健	一 同	吉 澤	
山 健	一 同	守 屋	高尾山報助成金志納者
上 者	子	惠 司	御芳名(順不同・敬称略)
登 健	一 同	高 尾 山 健 康 登 山 者	
山 健	一 同	松 岩	高尾山報助成金志納者
上 者	子	金 子	御芳名(順不同・敬称略)
登 健	一 同	直 樹	
山 健	一 同	和 直	高尾山報助成金志納者
上 者	子	順 子	御芳名(順不同・敬称略)
登 健	一 同	高 尾 山 健 康 登 山 者	
山 健	一 同	大 橋 材 木 店	高尾山報助成金志納者
上 者	子	紀 美 子	御芳名(順不同・敬称略)
登 健	一 同	石 井 平 塚	
山 健	一 同	中 村	高尾山報助成金志納者
上 者	子	有 大 橋 材 木 店	御芳名(順不同・敬称略)
登 健	一 同	順 子	
山 健	一 同	高 尾 山 健 康 登 山 者	高尾山報助成金志納者
上 者	子	高 尾 山 健 康 登 山 者	御芳名(順不同・敬称略)

二十八

奥之院開扉供養(十時奥之院)

二十一

神徳報謝百味飲食供
(九時大本堂)

飯繩様御縁日

☆神徳報謝百味飲食供

高尾山御本尊飯繩大権

現様の日々の御加護に感謝
し、沢山の御供物を捧げて
御本尊様威光倍増の為、御
供養申し上げる法要です。皆様の御志納を受け付
けておりますので、ご希望の
方は大本堂までお申し出下
さい。尚、法要終了後に百味
のお札を授与致します。

高尾山報助成金志納者

御志納金 每月二十一日午前九時勤修

一〇三千円以上



当山では、大護摩修行等により御縁を結ばれた御信徒様に高尾山報を送っております。
引き続いてご愛読され
ますよう、皆様方の助成
金御志納をお願い申し上
げます。

高尾山報助成金
御志納のお願い

発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 犬山秀康
編集人 菅井浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円

下記のQRコード
から高尾山薬王院の
ホームページに
アクセスできます
<https://www.takaoasan.or.jp>

